

全国の火山活動状況（1986年1月～3月）

気象庁地震火山部
地震火山業務課火山室

気象庁が常時観測を実施している17火山のうち、精密観測4火山については、1986年1月以降3月末までの活動状況を、普通観測13火山とその他の火山については、火山情報、火山性異常の報告を受けたものの状況を要約した。

全国火山活動概況は第1表に、火山情報発表状況を第2表に示す。

第1表 全国火山活動状況（1986年1～3月）

Table 1 Volcanic Activity in Japan

(From Jan. 1986 to Mar. 1986)

Volcano \ Month	1	2	3
Sakurajima	▲	▲	▲
Nasudake			●
Suwanosejima		▲	▲
Fukutoku-Oka-no-ba	▲	●	●

▲：Eruption ●：Anomaly

第2表 火山情報発表状況（1986年1～3月）

火山名 \ 情報	桜島	阿蘇山	浅間山	伊豆大島	霧島山
定期	3	3	3	3	1
臨時	4				
火山活動					

桜 島 （鹿児島地方気象台）

月別の活動の推移を示したのが第3表である。

第3表 桜島火山観測資料

月	1986/1	2	3
噴 火 回 数	38(35)	13(8)	14(13)
地 震 回 数	4,697	2,598	2,535
微動継続時間合計(h)	62.8	353.6	106.7

()内：爆発回数 地震回数：B点（地震＋微動）

火山活動は、昨年12月をピークに爆発回数が次第に減少し、噴石等による被害も2回発生したのみである。

主な爆発とその状況は次のとおり。

- 1月1日11時58分の爆発は、火山雷を伴いやや多量の噴煙を2400mの高さに噴出、南東方向に流れた。東桜島消防分遣隊からの連絡によると、この爆発で有村展望所から桜島口にかけて最大1cm程度の火山礫が降り、車6台のガラスが破損した。なお、1日09時の鹿児島上空1,500m付近では、北西17m/sの風が吹いていた。
- 2月6日01時28分の爆発は、爆発音・体感空振ともに大きく、鳴動を伴いながら多量の噴石を5合目まで飛散させた。空振は大部分日田市でも観測された。垂水市役所の調べでは、空振により垂水市街地（南岳から南々西に約11km）の住宅など50戸の窓ガラス82枚（うち玄関ガラス2枚を含む）が破損、その他、垂水港フェリー発着所待合室のテレビや、うどん製造工場の柱時計がコンクリート床に落下し破損した。また、鹿児島市中央消防局の調べでは、空振により改新小学校（古里町）の窓ガラス4枚、黒神小学校（黒神町）の窓ガラス1枚、対岸の市内にある放送局（与次郎2丁目）の窓ガラス1枚が破損した。

阿 蘇 山 （阿蘇山測候所）

月別の火山性地震回数等の推移を示したのが第4表である。

第4表 阿蘇山火山観測資料（A点）

月	1986/1	2	3
地 震 回 数	233	49	242
孤立型微動回数(0.5 μ 以上)	546	69	843
連続微動平均振幅(μ)	0.2	0.1	0.2

中岳第1火口の湯だまりは2月中旬と3月中旬に降雨等によりやや湯量が増加し、灰色がかった薄緑色

を呈した。土砂噴出は、火口内の噴気や湯気の量が多いため、全期間をとおし、小規模なもの（高さ1～5m）が一時的に観測されたのみである。また、微小な火山性地震が1月中旬と3月上・中旬に増加、3月23日05時20分に北外輪山付近を震源とする震度2の有感地震があった。孤立型微動も火山性地震の増加に伴い増加した。

赤外放射温度計による湯だまりの表面温度の観測結果は、3月8日67℃であった。

浅間山（軽井沢測候所）

月別の活動の推移を示したのが第5表である。

第5表 浅間山火山観測資料（A点）

月	1986/1	2	3
地震回数	5	28	16
微動回数	0	0	0

火山性地震は全期間をとおして極く小規模なものであったが、2月28日0.8 μ ～1.3 μ の比較的大きな振幅の地震が4回観測された。遠望観測では、2月に噴煙活動が若干活発化して、噴煙量4（やや多量）を観測した日が3日あり、噴煙の最高高度も7日に1,000mが観測された。その他の期間の噴煙量は3（中量）またはそれ以下で、噴煙の最高高度は600m（1月17日）であった。噴煙の色は全期間をとおして白色であった。

伊豆大島（大島測候所）

月別の火山性地震等の推移を示したのが第6表である。

第6表 伊豆大島火山観測資料

月	1986/1	2	3
地震回数（C点）	38	27	41
微動回数（A点）	0	0	0

大島および付近で発生したと推定される地震が時々記録され、2月2日00時09分、3月26日10時11分に震度1の有感地震があった。火口観測の結果は、全期間をとおして特に変化は認められなかった。

霧 島 山 （鹿児島地方気象台 1 月 17 日火山情報）

火山性地震の月別回数 は次のとおり。

月	1986/1	2	3
回 数	9	13	12

霧島山の現地観測を御鉢火口（昭和 62 年 12 月 5 日）、新燃岳（昭和 60 年 12 月 19 日）、周辺の地熱・噴気地帯および温泉（昭和 61 年 1 月 14 日）に実施した。結果は次のとおり。

新燃岳

山頂火口内の第 6 火孔の噴気温度は 158℃で、前回（昭和 60 年 9 月 5 日）とほとんど変わらず、噴気孔の形状や噴出力の強さにも変化はなかった。また、新燃岳北側火口縁の噴気は数か所確認されたが、変化はなかった。

那 須 岳 （宇都宮地方気象台）

3 月 12 日に那須岳山頂北側数 km、深さ 8km を震源とする $M=4.4$ の地震が発生、若松、白河で震度 2、水戸で震度 1 を観測した。聞き取り調査によると那須湯本で震度 3 程度の揺れを感じた。那須岳の噴煙には異常は認められなかった。

諏訪之瀬島

2 月 2、3、4、18、19 日、3 月 3 日に爆発があった（諏訪之瀬分校からの報告による）

海 底 火 山

福德岡の場 （海上保安庁水路部の情報による）

1 月 16 日変色水視認、18 日夜噴煙が認められ 20 日には新島が形成され、爆発に伴う白煙、黒煙、水柱、変色水、軽石が認められた。21 日火炎のほか黒色、茶黒色、褐色の噴煙及び噴石が噴上げられ、付近海面には変色水及び軽石が認められた。噴火活動は 22 日には認められなくなり、以後変色水と軽石が認められた。3 月に入り波食により新島は次第に面積を減少させ、26 日陸部の消滅が確認された。以後変色水が存続している。